

# 介護のICT化と効果的な活用

● **ICT化が求められる背景**  
 近年、介護・福祉業務におけるICT化の重要性が高まっています。高齢者人口や障がい者人口の増加、そして人口減社会における生産年齢人口の減少が背景となっており、

## 「介護のICT化」とは



### 竹下康平

株式会社ビーブリッド 代表取締役

1975年青森県生まれ。現(一社)介護離職防止対策促進機構理事、現(一社)日本ケアテック協会専務理事/事務局長、(一社)介護離職防止対策促進機構理事、(学)敬心学園日本福祉教育専門学校非常勤講師、SE、システムコンサルタントなどを経て、2007年より介護業界でのIT業務に従事し、現在は介護事業者向け総合サービス『ほむさぼ』(<https://homesapo.com>)を中心に、介護業界のテクノロジー利活用とICT化の普及のための相談・代行業務などを展開。「介護IT」と検索すれば、必ず上位にヒットする、数少ない介護業界に精通したエンジニアとしても有名。介護業界のITご意見番として、厚生労働省、行政でのセミナーや「月刊老施協」「介護ビジョン」「ヘルプマンジャパン」「アスキーWeb」などさまざまなメディアで情報発信中。「介護とITをつなぎ、現場ニーズに合致した技術開発の推進と情報発信をしていくのが私の役割」



介護・福祉業界に限らず日本は慢性的な人手不足に陥っています。

介護業界に焦点を当てると、需要は右肩上がりである一方、人手は不足している状況であり、それは顕著に介護人材不足に表れています。このまま介護の質を維持しながら従来どおりの業務を行うことは難しく、その点において生産性の向上が急務です。また、この1年は新型コロナウイルス感染症の拡大の影響によって、感染症対策の一環としてもICT活用の期待値は高まっています。

### ● ICT化の

#### メリット・デメリット

介護は、言うまでもなく専門職の仕事です。しかし、介護職員の1日を俯瞰すると、三介助を筆頭とした介護職の専門性を活かすべき業務以外の、例えば記録の入力業務といった事務作業などに多くの時間を費やしています。これは、単純に非効率というだけではなく、介護職にとってそれらの業務は望んで取り組むものではないことが多いため、時

に精神的な負担にもなっています。

ICT化を行う最大のメリットは、専門家が専門分野に特化できる環境を整えられることにあります。少し強い言葉で言うと、介護保険請求業務は事務業務であり、専門職の仕事とは言えません。専門家でなければできない業務以外は極力省力化し、排除していかなければなりません。ICT化の行く先は、介護の専門家が介護業務に集中できることを意味します。それは、恐らく介護業務に就く皆さんの理想だと思えます。

とはいえ、ICTの活用は簡単ではなく、ICTの専門知識が必要で、デメリットとは言いませんが、介護の専門家でありながらICTの知識も求められる時代であるということは、介護職の皆さんにおいて難しい局面であると考えます。

### ● ICT化の動向

近年、さまざまな介護業務向けのICT製品が生まれています。それらを活用する目的は、厚生労働省が発行している「介護サービス事業